

合わせて来ることもあります。

—— 一日の過ごし方ってどんな感じなんですか？

石川 朝起きて、朝食の用意を済ませたらもう書き始めます。八時から十二時頃までがいちばん集中して書ける時間です。若い頃は一日中ずっと書き続けていたんですが、最近はお昼を食べてからはちよっとペースが落ちてくるので、プロットを考えたりします。あと、メールの返事を考えたり……。

—— もともと作家志望だったんですか？

石川 学生のころ、就職というのがうまくイメージできなかったんです。原稿を応募して賞が取れたら、何とかなるんじゃないかという気持ちはあったと思います。ただ、在学中には最後まで書く、ということとは難しく、就職をしました。テレビの美術制作の仕事をしていたのですが、辞めたあと、ワープロを使ったアルバイトをしたのがきっかけでまた小説を書くようになって、『ユリエルとグレン』で賞をいただくことになりました。

—— 『ユリエルとグレン』（二〇〇八）は、ヴァンパイアに襲われたグレンを人間に戻すための手掛かりを得るためにユリエルとグレンの兄弟が旅をする物語で、二〇一〇年に日本児童文学者協会新人賞を受賞されましたね。ヴァンパイアの物語ですが、どうしてああいう世界を描こうとしたんですか？

石川 ヴァンパイアを書くという気は最初はなかったし、ファンタジーが好きだったというわけでもないんです。一番書きたかったのは主人公が旅をする物語です。でも未成年が旅をする物語というのは、現代の日本を舞台にするとできないですね。それで西洋の中世をイメージした世界を設定したんです。また旅をする必然性も作らなくてはいけないのでヴァンパイアを持ってきたんです。

—— ホラー小説とかは好きなんですか？ 主人公の兄弟の姓が、ラヴクラフトで、それはホラーの世界では有名な作家の名前ですよ。本誌の昨年七・八月号で、ホラー特集をしたときにそれが分かったんですが。

石川 耽美な世界の雰囲気を出してみようというのはありました。あと、分かりやすさ、覚えやすさも大事にしています。ファンタジーは、名前も創作されたようなものが多いので、読んでいて覚えにくいですよ。名前ということでは、

